

説教 キリストを模範とする

フィリピの信徒への手紙 2章1～11節

神の出家

「神の出家」(『奥村一郎選集』①慈悲と隣人愛)という言葉に出会いました。広辞苑には、出家とは「家を捨て仏門に入ること。俗世間を捨て、仏道修行に入ること。また、その人。僧」とあり、方向としては人から神、あるいは世から神と言えそうです。「人が人の世界から出て神へ

向かうのが人間の出家。しかし、「神の出家」は神が神の世界から出て、人間の中に入ったということ。受肉*は、「神の出家」と言えないか。フィリピ2章を引用して、このように奥村神父は説明しています。「神はすべてにまさると高き方でありながら、高い所に留まっておられず、一人の人間(幼子)として生まれ、しかも僕の姿になり、十字架に釘づけにされて殺される

まで父なる神に従う者となられた…。キリストとは、この世の中に、そしてこの世のあらゆることの中に徹底的に入っていく神である」と奥村神父は受肉された神、キリストを表現します。であれば、この神を信じ従うキリスト者も人間の世界の中に入っていきはざす。しかし、わたしたちは「世に入る」までもなく既に世にいます。「地の塩、世の光」であるために世に在る必要があります。しかし、世のものであってはならないということ忘れてはならないと思うのです。教会もキリスト教学校も、世のものになることなく、必要ある時には世の流れに否を唱えることができなくてはなりません。そうすることが過激な(radical)印象を与えたら、それが根(radix)を持つものであるからです。それが根本的(radical)な姿勢であるからです。

蓮根の収穫から

テレビで蓮根の収穫の様子を見ました。ひとりの農夫が胸まである防水服を着て、泥沼のような蓮池に入り、手をつき込んで蓮根を引き抜きます。そして、噴射機のようなホースから出る高水圧の水で蓮根の泥を洗い流していました。イエスがこの世に来て下さり、泥まみれにな

りながら人を泥沼(罪)から引き出して下さり、水で清めて下さった(洗礼)。回心とか救いと言われる出来事はこのように誓えられるかもしれないと、それを見ながら思いました。前述の書には「泥の中に入って行って、自分も泥になってしまうのではなく、泥の中に入って行って、その泥を「光る泥に変えていく力」をもっていなければならない。そのためには、「この世のものでない」という性格をもっていなければならない。すなわち、キリストは「この世にありながら、この世のものではない、つまり「この世を超えたもの」である」とあります。泥は汚い、しかし泥の中には蓮根を成長させる栄養素も含まれています。泥の中に生きている人間が泥になってしまふのではなく、泥の中にある栄養分を得て成長し、人に食され、人を養うようになるには何が必要でしょうか。それは「この世を超えたもの、光る泥に変えていく力」を持つ方 ― キリスト ― とどう関わるかではないでしょうか。

フィリピの人々への勧め

初代教会の信仰箇条として唱えられた大切な箇条であり、キリスト教の本質を問うて議論されたこの箇条が勧めることは何だったのでし

うか。「この世を超えたもの」をさへ含んでいるその勧めとは…。それは、「何事も利己心や虚栄心からするのではなく、へりくだって、互いに相手を自分よりも優れた者と考え、めいめい自分のことだけでなく、他人のことにも注意を払いなさい。互いにこのことを心がけなさい。」(3～4節)でした。あまりにも人間的で現実的すぎて、拍子抜けするかもしれません。それ程に、こと改めてそう言わねばならない程に、人間は利己心や虚栄心が強く、謙遜になることも、相手を認めることもできず、他人のことに注意を払えないということなのでしょう。わたしたちが口頭、葛藤していることと同じです。そうであるからこそ、「幾らかでも、…あるなら」とパウロは、人々―葛藤―の中に「キリストによる励まし、愛の慰め、霊による交わり、慈しみや憐れみの心」があることを確信します。フィリピの教会にはこれらの徳と言えるものがあまりなかった、でも少しはあった。これが教会の実情ではなかったのでしょうか。しかし、「少しでもあるなら、少しでもよいから、そこから始めよう」というのが著者パウロの切実な思いだったのかもかもしれません。この世を超越しておられる神であるにもか

かわらず、泥の中に飛び込んできて下さり、わたしたちを救ってくださった神。この方とどのように関わるか…。この方を信頼し、愛し、模範とする生き方を通して神は「幾らか」(1節)のものに「父である神をたたえる」(11節)結果へと変えてくださるのではないのでしょうか。毎日の生活の中で、人に対し、自分に対し、偽りに生きている苦しさを知っているわたしたち、「いつわりにくるくしさ 神のごとくいくことはできぬか」 八木重吉 神であり人であるキリストに倣って生きる道に答があるのではないのでしょうか。

* 受肉：本質的に目に見えない神が、イエス・キリストという形を取って神を人間に示された。

高等部より

ペンテコステ礼拝 5/22金 高等部PS講堂
伝道週間 6/15月-19金 高等部PS講堂
グリーンキャンパ 7/22水-24金 高等部追分教室
秋の伝道週間 10/26月-30金 高等部PS講堂
創立記念礼拝 11/17火 高等部PS講堂
保護者聖書の集い 具体的な日は「高等部便り」でお知らせ致します。

(宗教主任 相良 昌彦)

女子短大より

ペンテコステ礼拝 5/25月 12:35-13:05 女子短期大学礼拝堂
第9回 東日本大震災被災地支援ボランティア 7/31金-8/8土
オータム・リトリート 9/26土-27日 奥多摩 パイプサルチャー
神学校日礼拝 10/5月 12:35-13:05 女子短期大学礼拝堂
創立記念礼拝 11/16月 12:35-13:05 女子短期大学礼拝堂

(女子短期大学宗教活動センター)

Special Issue : Welcome to Aoyama Gakuin

特集 ようこそ、青山学院へ

出会いと発見の喜びに満ちて始まった、学院生活。各部の方に、新しい仲間に向けた言葉をいただきました。

神様と共に

中村 典子 幼稚園教諭

年少組の子どもたち、ご家族の皆さま、ご入園おめでとうございます。大きい組の子どもたちと冬に植えたチューリップは綺麗に咲き、この素晴らしい季節に新しい仲間をお迎えできることを嬉しく思います。お庭の池の中では、おたまじやくも元気泳ぎながら皆さんのことを待っていました。

幼稚園では、神様への「礼拝」を保育の中心にし、聖書の御言葉を聞き、讃美歌を歌い、祈る時大切にしています。これから幼稚園で神様と出会っていく子どもたちに、讃美歌に触れ、保育者が祈る姿を見て、神様の存在を感じていった人々のお話を紹介します。

入園後しばらくして、降園前に讃美歌を歌い、お祈りをしていた年少組。讃美歌は「ちいさいおてで」(「幼児さんびか」11番)でした。

ちいさいおてでをくみあわせ こうしておいのりいたしましよ かみさまよいこにしてください

最初は保育者が讃美歌を歌う姿、そして祈る姿を不思議そうに眺めていた子どもたち。「手をこうして組みあわせてね…」と伝えても、讃美歌をゆっくり歌っても、子どもたちは保育者をじっと見つめるばかりでした。しかし、時が経つにつれ、降園前になるに自ら手を組み合わせ、目を閉じる子どもたちが増えていきました。ある日、突然人々から「先生！ちいさいおてで！」と讃美歌のリクエスト。そして誰よりも先に人々が祈る準備をし、「ちいさいおてでを～」と口ずさむ姿が見られるようになりました。またお祈りも「神様にお話するんだよね」と、神様が共にいてくださることを感じ始めていたようにも思いました。

この他にも、園生活では神様のなされる業や神様の愛を大きく感じるがあります。季節の移り変わり、実のなる木(柿びわ等)の成長や収穫、水・土・砂を存分に感じ遊ぶこと…。そして嬉しい時、困った時、悲しい時、どんな時でも共にいてくださる神様の存在です。神様の愛を感じ、神様に守り導かれ、これからの幼稚園での毎日を過ごして参ります。

ひろかね まどか 初等部2年

ご入学おめでとうございます。わたしたち二年生は、一年生のためにチューリップのきゅうこんをうえて、みなさんがくるのをたのしみしていました。一年生のおせわを六年生と二年生のパートナーさんがしてくれます。パートナーさんは、しよぶでのおいさんやおねえさんのような人たちです。いっしょにあそんだり、学校のことをいろいろおしえてくれたりします。しよぶぶは、もう一つのかぞくみなんです。

いつもかみさまが見まわってくださり、先生やおともたちもやさしくしてくれます。わたしもすぐに学校にたのしくよえるようになりました。だからみなさんもあんしんして学校にきてください。なかよくなるのをたのしみしています。

なか 中里 恭子 初等部6年

一年生の時、私は初めて「パートナーさん」というものを知った。最上級生の六年生と一年生。この二人がペアを組んで、初等部で生活する。何て素敵な事なんだらうと、私は思った。朝、学校にくと教室までパートナーさんが「一緒に遊ぼう。」と言いにきてくれる。私がクラスの友達と一緒にいたかったから、その友達のパートナーさんも一緒に四人で遊んだ。今ではよく使っている音楽のリコーダーも初めて見せてくれた。私はそんなパートナーさんが大好きで、あこがれていた。

そんなあこがれていたパートナーさんに私もなる時が来た。今、一年生を迎え、とてもわくわくしている。けれど、私のパートナーさんはわくわくして一年生と一緒に遊んでほしいだけではないかと思う。しっかりと自分のこともやりながら一年生のことも気にかけて、その場に合った行動をしていたのだと思う。私も、そんなパートナーさんになり、一年生が楽しい初等部生活を送れるように支えたい。

岡 慎之助 中等部3年

1年生の皆さん、ご入学後、いかがお過ごしでしょうか。中等部では、毎日の礼拝を大切にしています。これを特異に感じる方もいらっしゃるかもしれませんが、英語でServiceと言います。奉仕するという意味です(決して、お昼寝タイムサービスではありません)。礼拝では、讃美歌を歌い、聖書の御言葉を心に傾け、神様に感謝の祈りを捧げます。神様、イエス様と向き合う大切な時間です。

中等部にはCF(クリスチャン・フェロウシップ)という活動もあります。自分の時間や力を他のために使う奉仕活動です。活動内容は、新学期の前日に登校し、校内の清掃をしたり、老人ホームへ慰問に出かけたり、クリスマスページの裏方をするなどいろいろあります。中等部生なら誰でも参加できる活動ですので、奮ってご参加ください。

僕が中1の時のある日、中等部に入学するまで聖書を読んだことがなかった友人が、「イエス様って、よく食事会しているよね。」「イエス様って、よく「言っておくぞ。」「って言うよね。」と話しかけて来た時に、僕は、彼が聖書を読み始めたこと、嬉しくなりました。

また、「困った時にしか神様なんて考えない。」と言っていた友人が、宿題の提出日に持ってきたはずの宿題が見当たらず、必死に探して、やっと見つかった時に「神様ありがとう！」と叫んだ時も、僕は非常に嬉しかったことをよく覚えています。毎日礼拝を守っている、と自然と僕はキリスト教を身近に感じられるようになります。毎週水曜日の朝には、祈禱会もあるので是非、友達を誘って、顔を出しに来てください。イエス様は、弟子たちの足を洗いました(ヨハネ13:5)。リーダーとは、民の上に立つ者を指すのではなく、民の元に降り、共に上を目指す者のことです。人の足を洗う者。そういう者になれるよう、共に学んで参りましょう。ようこそ！ 青山学院中等部へ。

荒井 滉平 高等部3年

皆さんはこれまで、どれほどの出会いを経験してきましたか?友人や先生、先輩や後輩などとの出会いはもちろん、本や映画、絵画との出会い等もあればその数は数えきれないでしょう。そんな中で自分の考えや感性、ひいては自分の人生にまで大きな影響を与えた出会いとは一体どれほどあったのでしょうか。

僕は知り合ってから17年になる友人がいます。彼とは生後9か月の時に保育園で出会いました。その後お互いの住む場所が変わりたはたものの、今でも時々二人でどこかへ遊びに出かけたりしています。ときと二人で互いの考えの違いから衝突したこともありましたが、今では何かあったときには互いに支え合える心の拠り所のような存在となっています。僕が副会長を経験したことのある後押しがあったからでした。生後9か月の僕は、彼との出会いがここまで長く続き、これ程人生に大きな影響を与えたとはいえないと思います。

新学期を迎え、新生活が始まった皆さんには、これから先、新たな出会いを待つことも待っています。それらの出会いは、いつの日かあなたの人生を大きく左右するでしょう。しかしそれがいつなのかは予想できません。出会ったそのときかもしれない、十年以上も先の未来かもしれません。ただ、一つ一つの出会いはその大小は別として、いずれあなたの人生に何らかの影響を与え、必ず人生を豊かにしてくれるはずです。出会いには、この短い文章のなかだけでは語りつくせないほどの価値があります。だからこそ、皆さんには与えられた一つ一つの出会いを大切に、互いに支え合い、愛し合いながら楽しい短大生活を過ごしていただけるよう、心から祈り願っています。

能城 明紀子 女子短期大学 子ども学科2年

新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。ようこそ、青山学院女子短期大学へ。新たに一緒に学ぶ仲間が与えられたことを感謝します。新しい生活には慣れたでしょうか?私は短大で自分の興味関心のある授業を受け、多くの新しい知識が得られ、充実した日々を過ごしています。新しい生活のなかでは、たくさんの方との出会いがあります。私はいつもたくさんの方の仲間に支えられて生活をしていると思います。短大に入学し、同じ夢や目標を持った多くの仲間に出会えました。互いに支え合い、語り合いながら日々勉学に励んでいます。私はキリスト教の家庭で育ったクリスチャンで、神様の導きの中でこの短大に入学し、今年の春から宗教活動委員長を務めて頂いております。宗教活動を行う中でも、たくさん先輩や新たに仲間からでした。生後9か月の僕は、彼との出会いがここまで長く続き、これ程人生に大きな影響を与えたとはいえないと思います。

短大へ入学し、はじめてキリスト教に触れる方もいらっしゃると思いますが、今の場所へ導かれたことは決して偶然ではないはずです。新入生の皆様には、ぜひ積極的に参加して頂き、より豊かな短大生活を過ごしていただけたら願っています。私にとってこの一年はあつとつと、多くの出会いを通して仲間が増えてきました。授業の中でお互いの意見やアイデアを共有することで、相手のことを知ることもできました。どんなに小さな喜びでも一緒に喜ぶことができる仲間、反対に何か悲しいことがあったとしても、隣で慰め励ましてくれる仲間が与えられていることは大きな喜びです。日々感謝の気持ちでいっぱいです。

皆様も多くの仲間と出会い、その仲間一人ひとりを大切に、互いに支え合い、愛し合いながら楽しい短大生活を過ごしていただけるよう、心から祈り願っています。

小峰 奏子 大学 経営学部4年

新入生のみならず、ご入学おめでとうございます。大学生になった皆さんは、この大学4年間の生活に何を期待するでしょうか。ご存知の通り、青山学院はミッションスクールです。毎日礼拝が行われ、聖書の授業もあります。私は高校が他のミッションスクールだったため、高校入学時にとても驚きを感じました。今までキリスト教に触れたことがなかったから、抵抗を感じていました。しかしミッションスクールであったからこそ、私の人生は大きく変わりました。毎日の礼拝、聖書の授業、教会によって私の中で徐々に、確実に信仰心が確立していき、初めとは言いつつも、毎日の学校生活の中では、特に神様を強く意識したことはありませんでした。そんな私に変化があったのは、いつものように礼拝をしている時でした。ふと思ったことがあったのです。それは、「今の私がここにいることも、全て神様のご計画だったのではないか」ということでした。第一志望ではなかった高校へ入学したからこそ出会ったキリスト教、そして先生方や友人。青山学院大学への推薦入学の道を与えて下さったのは神様だと素直に思い、初めて神様を強く感じて、何かか私の中で大きく揺れ動きました。そして高校三年生のクリスマスには洗礼を受け、神様を信じる者として歩むことを決めました。

大学生になり、本当に沢山の恵みを与えられました。同世代のクリスチャンの仲間と出会い、誰かのために祈ること、そして自分のために祈ってくれる仲間がいることを覚えました。青山学院大学でクリスチャンの学生として与えられる奉仕の一つ一つにより、私の信仰心は更に熱くなり、大きく育れました。私は現在留学中ですが、決心するにあたって背中を押して下さったのも神様でした。留学も全て導きであり、恵みとなって今に繋がっていると感じられることが嬉しく、神様に感謝しています。これからの大学4年間、色々なことに挑戦し、全力で走って下さい。青山学院という神様が用意して下さった最高の学び舎をフル活用して、神様に感謝しつつ、有意義な時を過ごせることをお祈りしています。



左から3人目が筆者

大学より

チャペル・ウィーク(前期) 5/25月-29金 青山・相模原 各界で活躍しているクリスチャンの方に礼拝でお話をいただきました。
ペンテコステ礼拝 5/25月 青山・相模原
5/26火 夕礼拝(青山)
清里サマー・カレッジ 8/3月-5水



創立記念礼拝 11/16月 青山・相模原
チャペル・ウィーク(後期) 10/19月-23金 青山・相模原 各界で活躍しているクリスチャンの方に礼拝でお話をいただきました。
(宗教センター事務局)

本部より

オール青山ハンドベルコンサート 9/12土 13:30-15:30 青山学院講堂
学院創立141周年記念礼拝 11/13金 カウチャー 記念礼拝堂
Art クリスマス Aoyama 11/25水-12/16水 キャンパリー他
クリスマス・ツリー点火祭 11/27金 相模原 全学院の礼拝として行います。どうぞご出席ください。
(宗教センター事務局)